

あなたの街の
ドクターが
アドバイス



黒色や赤色の皮膚腫瘍があったら ～ダーモスコープによる皮膚腫瘍の診断～

ダーモスコピー検査が役立つ疾患は多く、一部は保険適用検査です

近年、さまざまな皮膚疾患の鑑別と診断にダーモスコピー検査が活躍しています。ダーモスコピー検査は、ダーモスコープという光源を内蔵した、肉眼よりも約10倍程度に見える拡大鏡を使用して行います。ダーモスコープで皮膚を観察すると、肉眼による観察の際に生じる皮膚表面の角質からの光の散乱を取り除かれ、皮膚とその下の真皮の浅い部分での黒や茶や赤の色素の分布をうまくとらえることができます。皮膚に器具を押し当てて観察する検査ですので、皮膚にメスを入れて細胞を取るなどの痛みを伴う検査をせずに、短時間の診察で皮膚疾患の状態を把握することができます。

ダーモスコピー検査が役立つ疾患の数は多く、それぞれの疾患ごとに特徴的所見がよく知られています。現在、悪性の黒色腫（メラノーマ）、基底細胞癌（がん）、ボーエン病、良性の色素性母斑（ホクロ）、脂溶性角化症（老人性イボ）、老人性色素斑（シミ）、エクリン汗孔腫、血管腫などについては、保険適用検査になっています。

足底に黒っぽい腫瘍ができて、メラノーマを心配して患者さんが来院された場合、肉眼的所見およびダーモスコピー所見の両者ともホクロに特徴的であれば、摘出術をせずに経過観察をすることが可能です。テニスやサッカーなどの運動後に、かかどに黒っぽい出血斑（ブラックヒール）黒いかかどという意味）を生じ、メラノーマが疑われることがありますが、ダーモスコープでメラノーマに特徴的な所見がなく、ブラックヒールに特徴的な赤褐色から赤黒色の色素沈着が認められれば、1〜2カ月後には自然消滅すると予測できます。また、基底細胞癌と脂溶性角化症は、ともに顔面に好発して黒褐色調を呈（せい）し、肉眼的に似ていることがありますが、それぞれが特徴的なダーモスコピー所見を示しますので、摘出手術の前に予測を立て、病理組織検査によって確認します。

皮膚に黒色や赤色の腫瘍ができて心配な方は、一度皮膚科に相談することをお勧めします。

お話してくださった先生



加藤直子皮膚科スキンクリニック院長
加藤直子 先生

北海道大学医学部医学科卒業。北海道大学医学部付属病院皮膚科研修医、助手を経て、米国マイアミ大学皮膚科研究員として留学。1989年から市立小樽病院皮膚科医長、1994年から北海道がんセンター（旧国立札幌病院）主任医長を経て、2010年加藤直子皮膚科スキンクリニックを開院。医学博士、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医。